

グレゴリオ聖歌譜



ローマ・カトリック教会の儀式で歌われるグレゴリオ聖歌の楽譜です。羊皮紙を用い、五線譜上に四角形の音符を置くネウマ譜と呼ばれる独特な方法で記されています。現代の楽譜と大きく違うのは、それぞれの音符が「ドレミ」といった絶対音ではなく、単なる音の高低（相対音）を示すに過ぎない点です。

豊後府内の教会では1557年日本人による聖歌隊が組織され、2つの合唱隊がオルガンを伴奏に聖歌を歌っていたことが、イエズス会の記録等に記されています。また、1561年府内にやってきたサンチェス修道士は15名の子どもたちに歌とピオラ・デ・アルコ（弦楽器の一種）を教え、1562年大友宗麟が長男義統を連れ、修道院を訪れ、宣教師たちと会食した時に、子どもたちがそのピオラ・デ・アルコを演奏し、宗麟と義統は非常に喜んだといわれています。

府内の教会に本資料のような聖歌譜が備えられていた確証はありませんが、宣教師たちが聖歌隊や弦楽隊を指導している以上、楽譜があったと考えてよいのではないのでしょうか。

府内は西洋のたえなる調べが流れてくる町だったのです。

利用案内

- 開館時間 9時から17時（入館は16時30分まで）
- 休館日 毎週月曜日（祝日の場合は開館）
ただし、毎月第1月曜日は開館し、翌火曜日が休館（祝日の場合は開館）
祝日の翌日（土・日曜日の場合は開館）
年末年始（12月28日～1月4日）
- 観覧料 大人200円（団体150円） 高校生100円（50円）
※団体は20名以上、中学生以下は無料
※特別展開催中は別料金となる場合があります。
※身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方とその介護者は無料。受付で手帳を提示してください。
- 住所 〒870-0864 大分市大字国分960-1 TEL097-549-0880



交通機関
JR久大本線
※豊後国分駅下車
大分バス
国分新町ゆき
※歴史資料館入口下車
大分自動車道
大分IC、光吉IC
からともに約15分

夏休みジュニア歴史講座

- 期間 8月2日(水)～4日(金)
- 時間 13時30分～16時
- 対象 小・中学生(3日間連続して参加できる人)
- 内容 火起こし体験、明るさ体験、ミニ勾玉作りなどの歴史体験
- 参加費 無料 定員 50名(申込多数の場合は抽選)
- 申し込み 往復はがきに、住所・氏名・学年・保護者名・電話番号・講座名を明記し、7月20日(当日消印有効)までに歴史資料館へお申し込みください。

資料館しごと体験

- 日時 ■小学5・6年コース
8月17日(木) 9時30分～16時
■中学・高校生コース
8月18日(金) 9時30分～16時
- 内容 ■小学5・6年コース
展示室の清掃、土器の拓本取りなど
■中学・高校生コース
展示室の清掃、襖の下に隠された古文書探しなど
- 参加費 無料 定員 各コース20名(先着順)
- 申し込み 7月17日より電話でお申し込みください。

ふれあい歴史体験講座

- 実施日と内容 7月22日(土) 土笛作り
8月26日(土) 粘土はにわ作り
9月23日(祝) 勾玉作り
- 時間 9時30分～14時～(各回約2時間)
- 参加費 土笛 1個 50円
粘土はにわ 1個 210円
勾玉 大1個 200円 ミニ1個 190円
- 定員 各回70名(先着順)
- 申し込み 電話でお申し込みください。
土笛作りは受付中。
その他は毎月3日より受け付けます。

テーマ展解説講座

- 内容 講座室でテーマ展「お金の歴史」についてスライドなどで解説したのち、展示室をご案内します。
- 日時 7月23日(日) 14時～15時30分
- 講師 歴史資料館職員
- 参加費 展示をご覧になる場合は観覧料が必要です。

ミュージアム・シアター

- 実施日 7月23日(日) 大阪～浪花繁盛記/徳川家康
8月27日(日) 筑紫の磐井(アニメ)
鉄砲伝来～キリスト教と鉄砲伝来
9月24日(日) 対馬藩にみる鎖国時代の国際交流
杉田玄白と本居宣長
- 時間 13時～
- 料金 無料 申し込み 不要

大分市歴史資料館

OITA CITY HISTORICAL MUSEUM

ニュース



大分市歴史資料館 テーマ展示Ⅱ

お金の歴史

7月15日(土)～10月15日(日)

新収蔵品案内

グレゴリオ聖歌譜

江戸時代の小判(右:天保小判、左:文政小判)

お金の歴史

会期:平成18年7月15日(土)～10月15日(日)

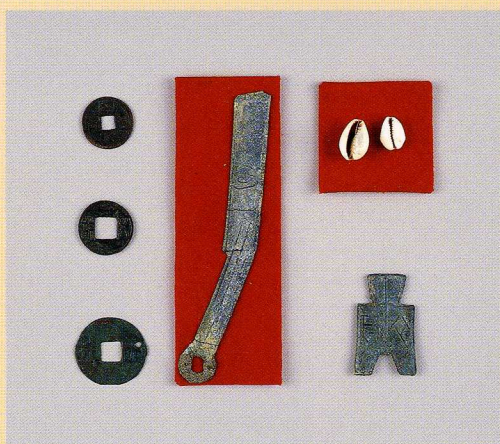
お金の誕生

現在、私たちは欲しい品物がある時、お金を払って手に入れます。では、お金のなかった時代はどうしていたのでしょうか。

お金のなかった大昔、人びとは品物を交換しあう物物交換で欲しい品物を手に入れていました。しかし、自分の欲しい品物を持っている相手が、自分の持っている品物を欲しがらなければ物物交換は成立しません。そのため、次第にみんなが欲しがらる品物－例えば食料や布などが媒介品として使われるようになりました。つまり、まず自分の持ち物を食料や布と交換し、その食料などと自分が欲しい物を交換するのです。このように、物物交換の時代に食料や布などがお金の役割を果たすようになったのです。

古代中国のお金

東アジアで、最初にお金を作られたのは中国でした。日本がまだ縄文時代であった紀元前15世紀、貝殻がお金として使われはじめ、同じ時期に貝殻をかたどった銅貨－貝貨が登場しています。また、紀元前8世紀には工具をかたどった布幣や小刀の形をした刀幣が使われています。そして、日本の弥生時代にあたる紀元前2～3世紀には、円形で中央に四角の穴が空いた銅銭が作られ、その後受け継がれる中国銭の基本形が定まりました。



古代中国のお金

和同開珎 (わどうかいちん)

日本では、長く物物交換の時代が続き、稲や布がお金として使われていました。古墳時代、鉄器を作る原料である鉄錠がお金であるとの説があります。その後、6～7世紀には中国や朝鮮半島から渡来してきた人びとが中国銭をもたらし、畿内の一部で流通していたようです。

長く日本最初のお金は708年に作られた和同開珎とされてきました。しかし、7年前奈良県明日香村で富本銭とよばれる銅銭が大量に作られた跡が見つかりました。この富本銭は和同開珎より前、683年ごろ作られたと考えられ、お金の歴史を塗り替える大発見と話題になりました。ただ、この富本銭がお金として使われたかははっきりしておらず、和同開珎が日本初のお金である可能性は残されています。

和同開珎以後中央政府は958年の乾元大宝まで全部で12種類の銅銭を鑄造しており、これらを「皇朝十二銭」と呼んでいます。



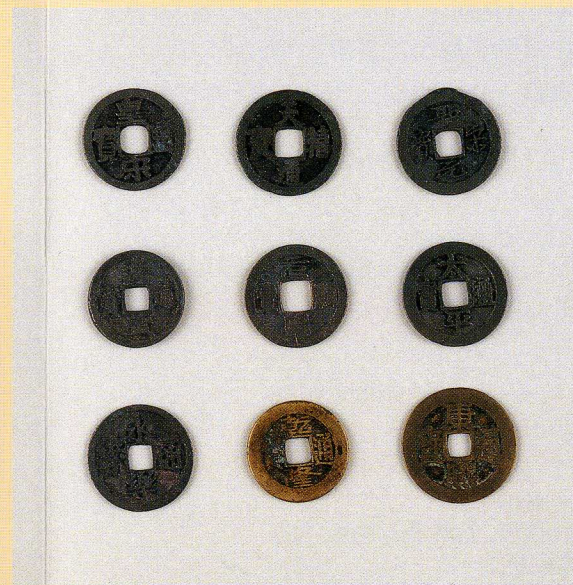
日本最初のお金？ 和同開珎

鎌倉～戦国時代のお金

日本では、平安時代中期の乾元大宝以降戦国時代までの約600年間、中央政府によるお金の鑄造は行われませんでした。

しかし、お金の必要性は奈良時代や平安時代よりも高まっていました。そこで、中国から大量の銅銭が輸入され、これが国内で使われるようになりました。その種類は100種類を超えています。

戦国時代になると、100年以上前に輸入された銅銭は磨耗したり、破損したりし、比較的新しく輸入された銅銭と同じ価値を持たなくなり、質の悪い銅銭を商人が受け取らないようになりました。また、日本でにせ銭も作られています。そこで、各地の戦国大名はにせ銭の使用を禁止するとともに、質のよい中国銭と悪い銭との交換比率を定め、円滑にお金が使われるようにしています。また、戦国時代には各地で金山や銀山開発が進み、戦国大名は独自に金貨や銀貨を作るようになりました。



中国からの輸入銭

江戸時代の金・銀・銭

1600年関ヶ原合戦に勝ち、天下の実権を握った徳川家康は、その翌年全国共通のお金として金貨と銀貨を作りました。それは平安時代中期の乾元大宝以来、実に約650年ぶりに中央政権によって作られたお金でした。

金貨には大判・小判・一分金の3種類あり、小判1両を基本として、大判は10両、一分金は1両の4分の1で計算されました。銀貨はなまこ形をした丁銀と円形の豆板銀の2種類があり、いずれも重さや大きさが一定でなく、そのつど重さをはかって使っていました。その後、二分金や一分金の2分の1にあたる二朱金、4分の1の一朱金なども作られています。

1636(寛永13)年江戸幕府は、それまでの中国輸入銭にかわる銅銭として寛永通宝を作り始めました。当初は大量に必要であったため、江戸の幕府直轄銭座以外での鑄造も許可され、豊後竹田でも一時期作られていました。寛永通宝は江戸時代を通じて作られており、庶民が一番慣れ親しんだお金でした。

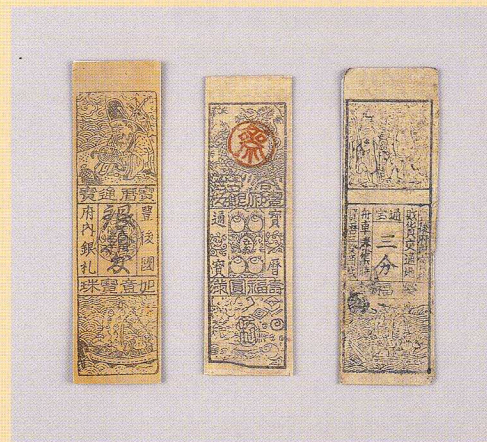
江戸時代のお金の基本は金・銀・銭の3種類です。しかし、その使用には地域差があり、東日本では金が、西日本では銀が主に使われていました。また、小判1両が銀何匁とか、銭何文で1両という交換比率は決まっておらず、時代や交換する場所で変わるいわば変動相場となっていました。



江戸時代の小判と丁銀

藩札

江戸時代、貨幣鑄造は幕府が独占していました。しかし、財政難に悩む各藩は幕府の許可を得て、独自の紙幣を発行するようになりました。これが藩札で、豊後国で最初に出された藩札は1749年の杵築藩で、府内藩では1754年に6種類の銀札を出しています。銀札はそこに書かれた銀の金額と本物の銀貨がいつでも交換できることが原則です。しかし、銀貨保有量以上に銀札を発行したため、信用不安を招き、1825年には「銀札崩れ」と呼ばれる通用停止状態に追い込まれています。



府内藩の藩札

近代のお金

1867年江戸幕府は滅亡し、天皇を中心とした明治新政府が誕生しました。新政府は貨幣制度の改革にも乗り出し、1871(明治4)年お金の基本単位に円と銭を採用し、1円を100銭と決めました。そして、20円・10円・5円・2円・1円の金貨と50銭・20銭・10銭・5銭の銀貨が発行されました。と同時に紙幣も各種発行しています。紙幣の発行は政府に限らず、私立の地方銀行(法律で設立が許可されたため「国立銀行」と呼ばれていました)でも独自に発行できたため、混乱するようになりました。そこで、1882年に日本銀行を設立し、新たな紙幣発行を日本銀行だけに限定しました。そして、経過措置後の1899年12月国立銀行券の流通を完全に停止し、紙幣は日本銀行券のみに統一しました。ここに近代の貨幣制度が確立し、その基本は現在まで受け継がれています。



明治時代から昭和時代前期のお金

トピックス

Topics

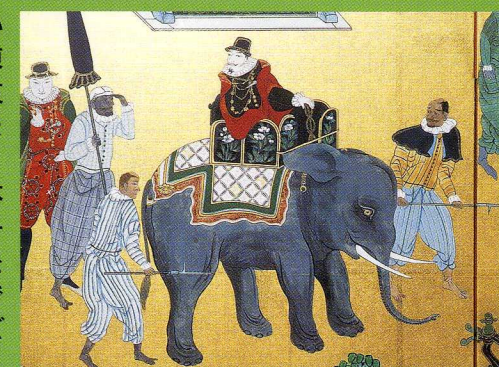
秋の特別展

ゾウがいた！象が来た？

平成18年10月20日(金)～11月19日(日)

大昔に大分にゾウが住んでいたこと、そして、戦国時代に東南アジアからインドゾウが友宗麟に贈られたことを知っていますか。

この展示会では、ゾウと日本人をめぐる知られざるエピソードを紹介します。会場はゾウを題材にしたかわいらしい作品でいっぱいになります。ぜひ、ご家族連れでお楽しみください。



豊臣秀吉に献上された象 (狩野内膳作「南蛮屏風」部分)